

## 桐たんす



見学場所

三島町桐畑

### ～三島町の桐保全への取り組み～

桐材 900 本の植樹と、年間 1000 万円の桐畑管理費の負担

### ～桐栽培の課題～

- ・栽培の労力に対して桐の価格が低く、経営が成り立たないこと。
- ・少子高齢化による財政難で町の支援がいつ終了してしまうか分からないこと。

### ～桐タンスの課題～

- ・ライフスタイルの変化により家にタンスを置かなくなったこと。
- ・高価なために一般の人が気軽に購入できるものではなくなったこと。

### ～桐の豆知識～

- ・桐は草の仲間である。その証として幹の中央部に穴が開いている。
- ・「木」に「同」で「桐」と呼ぶのはそのため。
- ・桐は世界で 2 番目に軽い木材である。

### ～歴史～

伝統工芸の一つである「編み組細工」。約 7000 年前、縄文時代には完成され、山仕事の道具入れとして造られていた。その中でも籠の編み方は「荒屋敷遺跡（三島町）」から出土した編み方を踏襲している。

### ～材料～

奥会津編み組細工は、奥会津地方の山間部で採取することのできる「山ぶどう、ヒロロ、マタタビ」などの植物を素材としている。

### ～主な品目～

山ぶどう→手提げ、財布      ヒロロ→手提げ、ショルダー  
マタタビ→米研ぎ笊、そば笊、菓子器

### ～編み組細工作り体験～

山ぶどうの皮を使い、ストラップ作り体験！山ぶどうの皮は乾燥しとても固い為、水を付け柔らかくしたのちに使用。実際に作成してみると、一見難しそうだが、とても簡単にできました！

## 編み細工

### 体験場所

三島町 生活工芸館



(体験で作成したストラップ)

### ～歴史～

約 1000 年前、平安時代中期に始められた。かつて「道肉の神」と呼ばれ品の高さから貴族の間で人気を集めた。また、紙漉きは養蚕農家の農閑期収入として始まった。

### ～材料～

上川崎和紙は「楮（こうぞ）」という植物を原料としている。楮は成長が早く 5 月に植え 12 月には収穫ができる。楮の皮を削り、中の部分を使用。

紙漉きには「トロロアオイ」という植物の根から取る「ねり」も必要。

### ～和紙ができるまで～

楮の皮をむく「かずはぎ」→かずはぎ後、専用の包丁で繊維を取り出す「かずひき」→白皮にした楮を 2、3 時間窯で煮て引き上げる→その後、水に浮かべ繊維からごみを取り除く「かずだし」→ピーター機で繊維をくたく「楮くだき」→紙漉き→乾燥→完成

### ～紙漉き体験～

簡単そうに見えてとても難しい紙漉き。楮の繊維とねりが混ざり合う水を掬うのはかなりの重労働。厚さを均等にする為水平に保ちつつ程よい速さで仕上げていくことが大変。出来上がった和紙を見て達成感を感じた。

## 和紙



紙漉き体験

体験場所  
和紙伝承館

## 共通課題

共通課題として伝統的技術ということもあり、後継者が不足していると聞いた。私たちは今回職人の方や技術を広めようと様々な取り組みをしている施設の職員の方から話を聞いたり、実際に体験したりしたことで伝統的技術を知ることができたが、プロジェクトとして活動していなければ知ることができなかった。これをきっかけに今を生きる若者に知ってもらえるように私たちの手でも広めていきたいと思う。

